

---

# 時計

棟

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

時計

### 【Nコード】

N5111A

### 【作者名】

棟

### 【あらすじ】

時間通り完璧に動く人間、青森。しかし、ある日から時間通りに動けなくなってしまう

## （前書き）

短編ですV短いので見て下さい

カチツカチツカチツ。

バツ！

午前7時00分

俺はこの時間に必ず目が覚める。

23年間生きていて、記憶がある中で7時00分以外に起きたことはない。常に7時00分に起きる。

その他、俺の体は全てが時間通りに動く。

会社は歩いて15分の所にある。

7時45分に出て必ず8時00分に着く。

昼、腹が空いたならその時刻は12時だ。

食事も決まった定食を頼み、15分で全て食べ終える。朝食夕食も決まった時間で食べ終える。

全ての仕事が終わるのが5時だ。残業などしない。自分の分が終れば直ぐ帰宅する。

夜、眠くなったので時刻は11時。

そして一日を終える。また次の日同じ事を繰り返す。

俺は時計がいらぬ。頭の中に時計が有るのと一緒だから。なので家には一個も時計が置いてない。

そして今日も同じ日が始まるはずだったが、今日は違った。

いつも通り起きた。頭の中の時計はもちろん7時00分だ。朝の準備を済ませ7時45分に出て8時00分に会社に着いたはずだが、会社に着いたのは8時05分だった。

気づいたのは会社に着いて同僚の鈴木に言われたからだ。

『珍しいな、時間通りのお前が5分も遅刻するなんて』

普通の人なら5分の遅刻なんて何も思わないだろう。

だが俺にとって5分は異常だ。現に鈴木も心配している。これが俺ではなく別の人なら誰も何も心配はしないだろう。しかし、俺だから心配される。絶対狂うはずのない時計が初めて誤差が出来たのと同じ事なんだ。

しかしどこで狂ったのだ。起きた時に既に5分過ぎていたのか？それとも家を出る時刻？会社までの道のり？何れも本物の時計を見ていないのでわからない。

その日俺は頭の中の時計は5分遅いまま過ごした。次の日もその次の日も俺の頭の中の時計は5分遅れたままだった。

休日俺は病院へ行った。しかし普通の病院なら、こんな症状追い返すだろう。

だから俺は普通とは違う病院に行く。病院といっても表向きは只の古びた雑貨屋である。しかし、裏では病院を営んでいる。客は俺ぐらいだが。

この病院は幼い頃から調子が悪くなると通っている。親の知り合いらしい。

『今日はどうしたんだ？』

この人が店長兼院長の黒森先生。一般的に言えば容姿は美人だ。だが性格は決して美しくはない。

『いえ、実はちよつと調子が悪いんで』

俺は今の状況を話した。

『ふむ、そんなに心配なら診てやってもいいが？』

顔はいいが言葉遣いは悪い。そして俺のことを客としては扱わないようだ。

『はい是非診て下さい』

『では診察室へ行くぞ。若葉！若葉！』

若葉とは定員兼、黒森先生の助手である。俺より年上だが正直頼りないし、とても年上には見えない。

『ハイ！黒森先生お呼びでしょうか？』

『この男を診察するぞ。準備をしろ』

『あゝ青森君じゃないですか。久しぶりですね』

『早く準備しろ！』

若葉さんは軽く叩かれた。

診察室へ向かう。俺は昔からここに来ているが診察室に入っている時の記憶がない。気づいたらもう診察は終わっている。

今日もいつもと同じだ。記憶がなくなる……………。

『やはり故障かな』

『そうですかね。もうあれから20年経つわけですから』

『そうだな』

『たしか、青森君が事故にあつて意識不明の重体。なんとか一命は取り留めたが、脳に大きな損傷があり、一意識が戻らないかもしれないなかつたんですね』

『ああ』

『それで青森君のご両親とお知りあいの黒森先生が脳を改造、半分を機械にしたんですね』

『あの人達も悩んでいたがな、自分の息子が改造されるなんていい気持はしないだろうからな』

『でも結局頼まれたんですね』

『私自身もあまり勧めはしなかったがな』 『青森君はこれで幸せだったんですかね？計画通り動く完璧人間ですが、やはり人間っぽさが失われている見たいで…』

『……………。』

『すみません』

『いや、いい。とにかく修理をするか』

薄れゆく意識の中そんな会話が聞こえた気がした。

俺は人間じゃないんだ。

（後書き）

ありきたりな感じですね



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5111a/>

---

時計

2010年10月22日09時01分発行